



学校だより

令和2年8月31日

ひびき 9月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

大きな変化の中で

校長 大塩 啓介

二週間という短い夏休みも終わり、児童の声が学校に戻ってきました。今年の学校運営は異例づくしで、さすがにお盆明けからの学校は、登校してくる児童にとって大変だったと思います。学校に入れば今はエアコンによって涼しく学習ができますが、登校の時間から30℃を超え、体調を崩した児童もいたのではないかと思います。こうした状況を踏まえ、登下校も給水してよいことにしました。ただ、交通事故や怪我の可能性もございますので、交通の妨げにならないところで、立ち止まった状態で給水するよう指導しているところです。

新型コロナウイルス感染防止と、熱中症防止の両面の対策に学校として苦慮しているところです。常時マスクはなかなか難しい状況でもあります。登下校中は距離を置いてマスクを外すように指導していても、なかなか児童の判断では難しそうで、学校に着くまではずさない児童も多くいます。早く新型コロナウイルスの感染が終息し、暑さも収まってくれることを願うばかりです。

世の中ではテレワークの増加、余暇の過ごし方の変化など、変わってきたことが多くあります。早く元に戻ってほしいという希望を持っていますが、元には戻らないものもたくさんあると思います。働き方の変化はその一番大きなところではないでしょうか。それにとまなう社会的需要の変化があり、経済活動にも大きな影響を与えています。

学校は児童が来て学ぶ場所ではありますが、オンライン学習がいつでもできるよう、横浜市として文科省から出されている「ギガスクール構想」を前倒しで進めているところです。年内には学校に一人一台分のタブレットの配当があり、必要に応じて児童に貸し出すことが想定されています。それと同時に、学校の回線も強化され、オンラインによる動画配信やリモート会議等がスムーズに行えるよう、年度内にも工事が進められます。

こうした変化と同時に、児童が楽しみにしていた行事等が中止になり、新学習指導要領で予定されていた各教科における新しい学習活動を制限しなければならなくなったことは、本当に残念でなりません。学校として児童に、どのようなところを、どのようにして補っていけるのか、検討し、実施してまいります。

とはいえ、状況は悪化の一途をたどっています。油断することなく、その時々状況をしっかり見極め、児童にとって最善の学校運営を行ってまいりたいと思います。